の人心に廣く且つ深く浸潤して居つたし、儒教は言ふまでもなく道義上の教として上下一般に行亙つて居つたものである。今⑨殘卷中の解し得る所で、之に關説し、彼に調和しようとした點の主要なる所を拾出して掲げて見ると、先づ4、5行に於て、天尊即ち神の見得べからざることを説いて、

諸佛及非人平章天訶羅漢、誰見天尊

といひ、18行には

人急之時、每稱佛名

といひ、21行には

誰報佛慈恩

といひ、59行に、常に惡を作し、また他人に惡を教ふるものは

突墮惡道、命屬閻羅王

といひ、69行に、天尊を怕れざるものは

此人及一依佛法、不成受戒之所

といひ、78行に

先遣衆生禮諸天佛、爲佛受苦置立天地、只爲清淨威力因緣

等と見ゆる如きは即ちそれであり、後者については62行以下に

若怕天尊、亦合怕懼　聖上、聖上前身福、私天尊補任、亦無自乃天尊耶、屬自作　聖上、一切衆生、皆取聖上進